

## COVID-19 流行下での理学療法学生の就職活動状況

長井真弓<sup>1)</sup> 鈿明佳代子<sup>1)</sup> 桂理江子<sup>1)</sup> 小野部純<sup>1)</sup> 小林武<sup>1)</sup>

1) 東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科理学療法学専攻

### 要旨

2020年度の一般企業による新規卒業者採用は、COVID-19感染拡大の影響を受け、採用時期が例年よりも遅かった。しかし、理学療法学生の就職活動状況に変化があったのかは不明である。そこで、学生の就職活動状況と養成校に届いた求人件数を2019年度と比較した。2019年度と2020年度に東北文化学園大学理学療法学専攻に4年次生として在籍し、アンケートに回答した95名のデータを分析した。2019年度、2020年度ともに95%以上の学生が医療機関から内定を得ていた。2020年度の内定月の最頻値は2019年度よりも1ヶ月遅く、第一希望施設から内定を得た学生割合も2020年度の方が少なかった。求人件数についても2020年度は、2019年度よりも約80件少なかった。内定時期が1ヶ月遅かったことと第一希望施設から内定を得られなかった学生が多かったことは、緊急事態宣言などの影響により早期に募集定員が満たされたことも原因と推察され、2020年度の就職活動状況は少なからずCOVID-19による影響を受けたと考えられる。

【キーワード】 COVID-19, 理学療法学生, 就職活動

### I. はじめに

2020年4月16日に新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）による緊急事態宣言が全都道府県に発出され<sup>1)</sup>、就職みらい研究所の調査では、新規卒業者採用でCOVID-19の影響があったと回答した企業が86.8%、就職活動に影響を受けたと回答した学生は61.5%であった<sup>2)</sup>。実際に2020年8月に本学にて主催した大規模な就職説明会では、一部事業所がオンラインでのリモート参加となるなど、例年とは異なる方法で実施され、事業所にとっても学生にとっても大きな影響があったと推察する。就職白書2021<sup>3)</sup>によると、一般企業では緊急事態宣言の影響もあり採用プロセスが例年よりも後ろ倒しとなったと報告があった。しかし一部学生からは「希望した施設の募集が締め切られていた」、「関東地方の学生が例年よりも早く就職活動を実施しているようだ」との声が聞かれた。そこで、2020年度の理学療法学生の就

職活動状況を2019年度と比較し、その違いについて検討したので報告する。

### II. 方法

#### (1) 対象

2019年度と2020年度に東北文化学園大学理学療法学専攻に4年次生として在籍していた125名のうち、アンケート調査に同意し回答の得られた学生95名（2019年度：53名、 $22.1 \pm 1.7$ 歳、2020年度：42名、 $22.0 \pm 0.4$ 歳）を分析対象とした。アンケート実施に際し、すべての学生には回答により個人が特定されないことなどを説明し同意を得た。なお本研究は、東北文化学園大学倫理委員会の承認を得た（文大倫第18-14号）。

#### (2) 調査内容とデータ分析

2020年2月と2021年2月にGoogleフォームを用いたアンケート調査を実施した。調査時

表 1. アンケート内容

- 
1. 内定先の施設名を教えてください  
・記述式で回答
  
  2. 内定した学年と内定した月を教えてください  
・〇年次〇月 の形式で記述回答
  
  3. 内定先の施設種類を教えてください  
医療機関（大学病院，一般病院，診療所）  
介護福祉施設（介護老人保健施設，（特別）養護老人ホーム）  
訪問看護・リハビリテーション施設    健康産業    行政関係機関    教育・研究機関  
その他（自由記載）
  
  4. 内定先施設所在地を教えてください；以下の地方を選択後，都道府県を選択回答  
北海道・東北地方    関東地方    中部地方    近畿地方  
中国・四国地方    九州・沖縄地方    その他（自由記載）
  
  5. 内定施設が第一希望か教えてください。第一希望ではない場合はその理由も教えてください  
第一希望だった  
第一希望ではなかった  
不採用    希望施設の求人が出なかった    その他（自由記載）
- 

点で内定を得ていない学生には、内定後にメールにてアンケートフォームを送付して回答を得た。アンケートは、記述式もしくは選択式のいずれかで回答する 5 つの設問とした（表 1）。学生の傾向を把握するために、調査した 5 項目のうち、質問 2 から質問 5 の問いに対して、項目ごとに回答者数と回答割合を算出した。2019 年度と 2020 年度に、本学キャリアサポートセンターに届いた求人事業所数を調査し、月別と地域別にまとめた。また学生がキャリアサポートセンターに提出した試験報告書から初回試験時の受験者数を月別にまとめた。

### Ⅲ. 結果

#### （1）内定状況について

2019 年度の全学生の内定先は卒業年次内に決定した。2020 年度では、97.6%（41 名）の学生が卒業年次内に、2.4%（1 名）の学生は卒後 4 月に内定先が決定した。施設種類の結

果は、医療機関が最も多く、2019 年度は 98.1%（52 名）、2020 年度は 97.6%（41 名）であった（図 1）。医療機関と介護福祉施設以外への内定者はいなかった。月別の内定者割合は、2019 年度では 10 月が 26.4%（14 名）、2020 年度は 11 月が 28.6%（12 名）と最多であった（表 2）。初回試験時の受験者数の月別推移は、2019 年度は 9 月に 28 名、10 月 9 名、2020 年度は 9 月 18 名、10 月 13 名であった（表 3）。地域別の内定者割合の結果、北海道・東北地方の内定者割合が 2019 年度は 62.3%（33 名）、2020 年度では 66.7%（28 名）であった（表 4）。第一希望施設から内定を得た学生は 2019 年度 75.5%（40 名）、2020 年度は 66.7%（28 名）であった。第一希望ではなかった理由は、不採用が最も多く、2019 年度は 69.2%（9 名）、2020 年度は 78.6%（11 名）であった（表 5）。その他の意見として、2020 年度では、「募集定員を満たし、求人

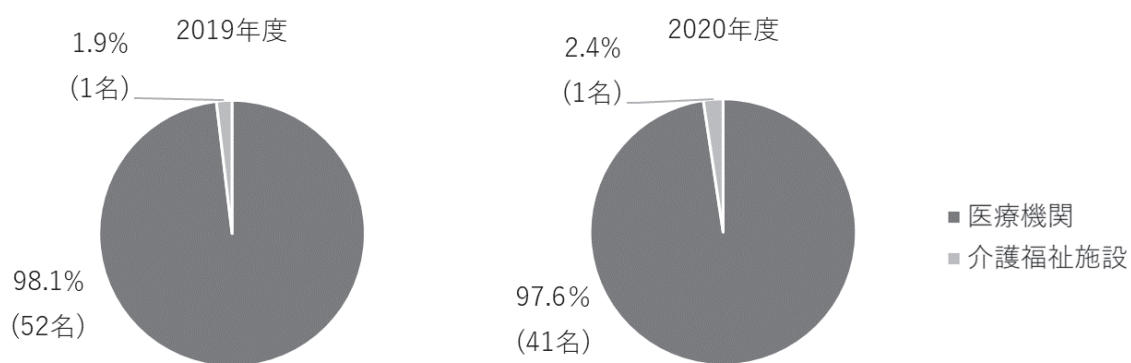


図1. 内定施設種類の割合

表2. 月別の求人件数と内定者割合の推移

	2019年度			2020年度		
	求人件数 <sup>aa</sup> (件)	内定者数 (名)	内定者割合 <sup>bb</sup> (%)	求人件数 <sup>aa</sup> (件)	内定者数 (名)	内定者割合 <sup>bb</sup> (%)
3月	31	0	0.0	32	0	0.0
4年次4月	36	0	0.0	42	0	0.0
5月	113	0	0.0	70	0	0.0
6月	143	0	0.0	153	0	0.0
7月	161	0	0.0	121	0	0.0
8月	71	4	7.5	56	2	4.8
9月	43	11	20.8	32	6	14.3
10月	33	14	26.4	34	8	19.0
11月	21	12	22.6	19	12	28.6
12月	10	4	7.5	22	4	9.5
1月	7	0	0.0	8	1	2.4
2月	11	2	3.8	11	0	0.0
3月	6	6	11.3	4	8	19.0
卒後4月	1	0	0.0	0	1	2.4
総数	687	53	100	604	42	100

aa：求人件数は事業所数を示す

bb：内定者割合 = 内定者数/内定者総数 × 100

表 3. 初回試験時の月別受験者数の推移

	2019年度	2020年度
4年次4月	0	0
5月	0	0
6月	3	3
7月	0	0
8月	4	5
9月	28	18
10月	9	13
11月	4	4
12月	0	2
1月	0	0
2月	0	0
3月	2	4
卒後4月	0	1

(名)

表 4. 内定者の内定地域別集計<sup>aa</sup>

	2019年度				2020年度			
	出身者数 (名)	求人件数 <sup>bb</sup> (件)	内定者数 (名)	内定者割合 <sup>cc</sup> (%)	出身者数 (名)	求人件数 <sup>bb</sup> (件)	内定者数 (名)	内定者割合 <sup>cc</sup> (%)
北海道・東北地方	53	209	33	62.3	42	203	28	66.7
北海道	0	33	0	0.0	0	32	1	2.4
青森県	5	20	0	0.0	5	27	3	7.1
岩手県	9	25	9	17.0	5	23	3	7.1
宮城県	18	53	12	22.6	20	47	15	35.7
秋田県	2	12	1	1.9	3	16	1	2.4
山形県	8	22	3	5.7	5	20	3	7.1
福島県	11	44	8	15.1	4	38	2	4.8
関東地方	0	365	20	35.8	0	308	14	33.3
茨城県	0	17	0	0.0	0	16	0	0.0
栃木県	0	17	4	7.5	0	13	1	2.4
群馬県	0	11	1	1.9	0	8	0	0.0
埼玉県	0	66	3	3.8	0	68	2	4.8
東京都	0	116	4	7.5	0	79	4	9.5
千葉県	0	65	4	7.5	0	53	3	7.1
神奈川県	0	73	4	7.5	0	71	4	9.5
近畿地方								
京都府	0	13	1	1.9	0	8	0	0.0

aa：内定者数が0の都道府県については記載していない

bb：求人件数は事業所数を示す

cc：内定者割合＝内定者数/内定者総数×100

表 5. 第一希望施設への内定を得た学生の割合

	2019年度		2020年度	
	回答者数 (名)	割合 (%)	回答者数 (名)	割合 (%)
第一希望だった	40	75.5	28	66.7
第一希望ではなかった	13	24.5	14	33.3
不採用	9	69.2	11	78.6
希望施設の求人が出なかった	3	23.1	1	7.1
その他	1	7.7	2	14.3

が終了していた」との意見があった。

#### (2) 求人件数について

月別の求人件数は、2019年度が687件、2020年度が604件と2019年度の方が多く、どちらの年度でも5月から7月にかけて求人件数が多かった(表2)。地域別の求人件数は、関東地方の求人件数が多く、次いで北海道・東北地方であった。北海道・東北地方の中では宮城県の求人件数が最も多かった(表4)。

#### IV. 考察

2019年度と2020年度の学生の就職状況を調査した結果、医療機関へ就職する学生が95%以上と非常に多く、韓ら<sup>3)</sup>は病院91.6%、介護福祉施設6.3%と報告しており先行研究よりも多い結果となった。これはキャリアサポートセンターに寄せられた求人のうち、病院が約70%、介護福祉施設が約10%と病院からの求人割合が多かったこと、そしてほとんどの学生が医療機関への就職を希望していたためと思われる。

内定月については、2019年度では10月に最も内定を得た学生が多かったのに対して、2020年度では11月と1ヶ月遅かった。本研究対象の4年次生は、5月から7月下旬まで10週間の総合臨床実習を履修する。その後、8

月上旬には本学主催の大規模な就職説明会が開催され、本格的な就職活動へ移行する。しかし、2020年度はCOVID-19の感染拡大により、臨床実習を学内で実施することとなったが、例年同様に多くの学生は臨床実習への取り組みを優先した。さらに例年8月上旬に実施している就職説明会はCOVID-19の影響により8月下旬の開催となったため、多くの学生の活動開始時期は例年よりも遅かったと推察される。受験者数の推移を見ても、2020年度は9月と10月に受験者数が分散していた。これらのことが内定月の遅れにつながったと考えられる。

一般企業では緊急事態宣言の影響もあり採用プロセスが例年よりも後ろ倒しとなった<sup>2)</sup>と報告があったが、今回の結果も同様に後ろ倒しとなったと推察される。さらに2019年度は3月以降に内定を得た学生が2名であったが、2020年度は5名と増加していた。対象学生は、国家試験勉強と就職活動を12月頃まで並行して実施し、それまでに内定が得られなかった場合、1月からは国家試験勉強に専念するよう指導されていた。2020年度3月以降の内定者が多かったことは、国家試験終了後の2月末から就職活動を再開した学生が多かったことを反映していると考えられる。これらの変化はCOVID-19による緊急事態宣言などの影響があったと思われるが、本研究結果のみでは断定

できない。そのため今後も継続した詳細な調査が必要である。

内定施設の所在地は、北海道・東北地方が 2019 年度は 62.3% (33 名)、2020 年度では 66.7% (28 名) と多く、県別では、どちらの年度でも宮城県内の事業所から内定を得た学生が最も多かった。これは求人票の多くが、養成校の所在地周辺の事業所であったことが影響している。北海道・東北地方の県別求人事業所数のうち、宮城県は約 50 事業所と最多であった。我々は、北海道・東北地方に就職した卒業生の多くが卒業時に出身県で内定を得ていた<sup>4)</sup>と報告した。今回の対象学生は全員が東北地方出身者であったことも、北海道・東北地方の高い内定率の一因であると考えられる。COVID-19 の影響については、両年ともに北海道・東北地方での内定者割合が 65%前後であったことから、その影響は小さいと推察された。

内定施設が第一希望だった学生は、2019 年度 75.5% (40 名)、2020 年度は 66.7% (28 名) であった。第一希望ではなかった理由として最も多かったのは不採用であり、2019 年度は 69.2% (9 名)、2020 年度は 78.6% (11 名) であった。我々は、COVID-19 流行以前でも、24.5%の学生は第一希望施設から内定を得られず、そのうちの 72%は不採用であったと報告した<sup>4)</sup>。今回の結果でも同様に、内定施設が第一希望ではない学生がいたことから、COVID-19 の影響に関係なく、一部学生にとっては希望に沿った就職が難しいことが明らかとなった。しかし、2020 年度に第一希望施設から内定を得られなかった学生の中には、就職活動時期が遅かったことで、希望した施設への受験自体が困難であったと回答している学生もいた。この点は、COVID-19 の影響によるものと推察された。

本研究では、2020 年度の理学療法学専攻の就職活動が COVID-19 による影響を受けたかどうか 2019 年度との比較から検討した。2020

年度の理学療法学専攻の就職活動状況は、2019 年度よりも内定時期が 1 か月遅かった。これは COVID-19 による緊急事態宣言などの影響で早期に募集定員が満たされたことなども原因と推察される。本研究は 2 年分の就職活動状況の比較であった。これらの変化が COVID-19 の影響かどうかを明らかにするために継続的な調査が必要である。

## V. 文献

- 1) 厚生労働省：新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の区域変更。  
[https://corona.go.jp/news/pdf/kinkyujitaisengen\\_gaiyou0416.pdf](https://corona.go.jp/news/pdf/kinkyujitaisengen_gaiyou0416.pdf) (閲覧日 2021 年 8 月 19 日)
- 2) 就職みらい研究所：就職白書 2021。  
[https://shushokumirai.recruit.co.jp/wp-content/uploads/2021/04/hakusyo2021\\_01-48\\_up.pdf](https://shushokumirai.recruit.co.jp/wp-content/uploads/2021/04/hakusyo2021_01-48_up.pdf) (閲覧日 2021 年 8 月 25 日)
- 3) 韓憲受, 久保晃, 丸山仁司：理学療法学科新規卒業生の 20 年間における就職地域と就職先調査—国際医療福祉大学大田原キャンパスの検討—。理学療法とちぎ 2019 ; 9(1) : 13-17.
- 4) 長井真弓, 釧明佳代子, 桂理江子, 他：理学療法士養成校の就職活動状況および就職先選択条件—東北地方の私立大学での実態—。理学療法科学 2021 ; 36(1) : 59-65.

# Placement activities of physical therapy students during the coronavirus (COVID-19) pandemic

Mayumi Nagai<sup>1)</sup>, Kayoko Kenmyo<sup>1)</sup>, Rieko katsura<sup>1)</sup>, Jun Onobe<sup>1)</sup>, Takeshi Kobayashi<sup>1)</sup>

1) Faculty of Medical Science and Welfare, Tohoku Bunka Gakuen University

## Abstract

---

In 2020, due to the coronavirus (COVID-19) pandemic, the recruitment of new graduates in general companies was later than usual. However, it is unclear whether there were any changes in the placement activities of students from the Physical Therapy Course at Tohoku Bunka Gakuen University. This study investigated the placement activity situation of the students and the number of placements available accepted by the university in 2020 compared to in 2019. A questionnaire survey on placement activity was conducted on 95 fourth-year students from the Physical Therapy Course of the university in 2019-2020. More than 95% of the students gained employment in medical institutions in both 2019 and 2020. In 2020, students gained the most employment one month later than in 2019. Furthermore, the percentage of students who gained employment from their most wanted medical institution was lower in 2020 than in 2019. The number of placements accepted by the university were fewer in 2020 than in 2019. These results suggest that placement activities in 2020 were affected by the COVID-19 pandemic since the application period of medical institutions was closed earlier than normal due to the state of emergency and other influences.

---

【Key words】 COVID-19, physical therapy students, placement activities